

月報

<450号>

ケルンボン日本語
キリスト教会
二〇二〇年二月一六日発行

「隠されている神のご計画」

佐々木良子

二〇二〇年のクリスマスは、世界が混乱を深めている中で迎え、色々な意味で誰もが忘れることのできない時になったと思います。

一昨年から私たちの教会のクリスマスは、子どもたちと合同で、教会に集っておられる方々が全員参加してパーシエント礼拝をお献げしていました。皆様の楽しみとなっていました。残念ながら今年は叶いませんでした。

今年はスカイプでのクリスマス礼拝となりましたが、そのことにより、日本から、そしていつも参加する事ができない方々等、多くの方々と共に心併せることができ、豊かなお恵みの内にイエス様のご降誕をお祝いできたことに感謝しています。

礼拝の中で特別賛美として、私が日本でお仕えていた前任教会のハンドベルクワイヤーの動画を共有させて頂き、又、私たちの教会の方の静かなギター演奏など、沢山の方々の賜物と愛が主に献げられ、今年のこの時でしか味わうことができないクリスマス礼拝となりました。

当初は寂しいクリスマスを迎えなくてはならないと気持ちが沈むような時もありましたが、主から様々な知恵を頂き、そして、多くの助け手を与えられ、想い出に残る温かなクリスマスになったように思われています。

この一年間は計画していた事を次々と断念せざるを得なく、これまでの固定観念を払拭し、現状と共存しながらバランスをとってゆく知恵を祈り求めながらの歩みでした。世の中がどうであれ、先が見通せなくても、為すべきことは必ずある筈だと、先ずは今を淡々と過ごしてきました。それらの日々を思い巡らしてみると、神様は、「今」この時でできることの最善を為してくださいました。信じ感謝しています。それも私たちが考えつかないような仕方です。恵んでくださいました。

私たちは「今」しか見ることができませんが、「永遠」の視点から私たちを見ておられる全知全能の神様がなされる最善は、私たちの思いを超えて私たちの人生を根底から支え励ましてくださる大いなる御業です。

神様の御手の内にある、ということを中心に信じていることができるなら、たとえ目の前の受け入れ難い状況の中でも「神は最善しかなさらない」のだから、このことにも今の私には分からない『神のご計画』が隠されている」と信じて、希望を失うことなく歩むことができるということ、私をはじめ、教会の方々も実感した年になったと思います。

旧約聖書に登場するイスラエルの民はモーセという指導者によってエジプトから脱出することができましたが、その後、荒野を彷徨う旅となりました。その時神様は、「昼は雲の柱、夜は火の柱」となって彼らを導いたと記されています。(出エジプト記二三章一七～二二節)

昼間は厳しい暑さのために移動することは難しいので、実際には夜に移動することの方が多かったようです。暗闇の荒野を旅する為に火の柱・導きの光がなかったら移動することは不可能でした。このように雲の柱、火の柱に導かれながら歩むイスラエルの民の姿は、イエス様の光に

日々、導かれていた私たちが自身の姿が重なるように思えます。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」(ヨハネによる福音書八章一二節) イエス様はご自身のことを光だとはっきり断言され、私たちに導きの光として照らしてください、という約束が記されています。イエス・キリストは、暗闇の中にある者たちに命を与えるためにこの世へと来られ、という、クリスマスのメッセージでもあります。

今の世界は正に荒野のようで、私たちはその中に置かれ、イスラエルの民のように彷徨う旅人です。否、むしろ、その時よりも様々な悪しき闇の中に置かれているかもしれません。そのような現実を受け入れ難く、眩き嘆きたくなるかもしれません。時には不信仰に陥るかもしれません。

しかし、どのような状況でも、どんなに暗闇であつたとしても、そこに隠されている神のご計画があることを信じていることが希望へと繋がる道です。目の前が暗闇でもそれは滅びの道ではなく、祝福と恵みの道であるという、約束された将来へ繋がっていく道を、イエス様の光に照らされながら歩む新しい年とさせて頂きたいです。



日本から動画によるハンドベル演奏を、スカイプにて見る事ができました



《クリスマスに寄せて》

佐々木良子

毎年この時期になると、私たちの教会がお世話になっているドイツ州教会の事務所から、クリスマスカードと共にドイツのヘルンフォート兄弟団が発行している聖書日課「ローズンゲン(日々の聖句)」が送られてきます。私のような所謂外国人にもこのように目を留めてくださっていることは、とても嬉しく励まされています。

今年はこのローズンゲンを有効に用いることができました。スカイプ礼拝に参加できないオランダドイツの姉妹方にローズンゲン・ドイツ版を配信しています。日本語が苦手な方々とドイツ語が苦手な私が、御言葉によって心通わすことができた一年となり、ローズンゲンは何よりのクリスマスプレゼントとなりました。

小川オスナー良子

今年九月に老人介護士の資格試験に受かり、ほっとしている。これまで支えて下さった教会と家族、友人に感謝します。一歳になったヨハンは五月に自転車で転び十字鞆帯を怪我をしたが、三ヶ月でほぼ全快。十月には Bad Lautstätt で魔笛の公演に二回出演。合唱団での練習は小さなグループに分かれてコロナ禍の中でも続いている。今年にはクリスマスコンサートはできないが、Youtube にビデオを載せるそうです。最近彼は携帯ばかりで本をあまり読まないのが、漱石の「坊ちゃん」(ドイツ語)を勧めたら、出だしの坊ちゃんが二階から飛び降りるところがすごく気に入って読み始めた。さすが漱石。今年にはコロナ禍の中それぞれが一生懸命生きた一年だった。予防接種が始まりつつあり、トンネルの先の光は見えてきている。予防接種が行き渡るまでまだ先は長い、それまで共に耐えていくことができますように。

今年三月のロックダウン間近にアムステルダムコンセルトハボウのコンサートへヨハンと一緒にいった。もう二度とあの頃の気楽な日々には戻れないような気がする。でもコロナの中でも練習を続ける音楽家たちもコロナと戦っているのだ。困難な時を皆と乗り越えていくことができますように。

金ジョンホ、金ソウン

今年のクリスマスの風景は多分去年には誰も思いつきもなかったことでしょう。コロナによる当たり前だった日常はもはや当たり前とは言えなくなりました。それでもイエス様が私たちのためにこの世に赤ちゃんとしてみたら来られたのは揺るがない事実であり一番の喜びです。

不便な想いは少ししておいて、思い切りイエス様の誕生を祝い、そのために救われた私の命を力いっぱい感謝したいと思います。

人との距離が必要になった今だからこそ、深く主のみ恵みについて考えて祈ってその愛を人に分けられたらうれしいと思います。

それでは今年もメリークリスマスー!!

クリステイーナ・ユエン

Good News from heaven the Angels bring
Glad tidings to the earth they sing
To us this day a child is given
To crown us with the joy of heaven.

グルーベ道子

この歳で健康を与えられクリスマスを迎えることができることは、大きな贈り物と感謝しています。キリストのご降誕を待ち望む待降節は、私にとって一年のうちでも時の流れを細かく感じ取っていく大切な期間です。その流れは、時にはすごいスピードで、あつという間にクリスマスが訪れてしまったり、時にはゆっくと日々を受け止められ、味わえる経験を重ねていく流れであったり、毎年異なるものです。

羊は眠れり 草の床に

牙えゆく冬の夜 霜も見えつ

はるかにひびくは 風か、水か

いな(否)とよ、みつかい 歌うみつた

まひるに劣らぬ くしき光

みそらの彼方に 照り輝く

救いをもたらす 神の御子の

生まれしよろこび 告ぐる星か

「あめにはみさかえ 神にあれや
つちには穏やか 人にあれ」と
昔のしらべをいまにかえし

歌えや、友らよ、声も高く

(讚美歌一九番 三輪源造作詞・鳥居忠五郎作曲)

この待降節の流れは、この静かな曲の讚美歌が歌ってくれているように感じられます。救い主の御降誕は喜ばしい訪れではありますが、この幼子が後には十字架を背負われることを思うと心は痛み、ひたむきに静かな平安を感じさせられます。霜が見える今日この頃の冷たさに、暖かいぬくもりと明るい希望が与えられる日々です。

小宮讚美

クリスマスおめでとすごございます。
皆様のうちに平和が有りますように。



シュミット亜弥子

クリスマス時期にはカトリック教会やプロテスタント教会は毎年献金を呼びかけています。プロテスタント教会は例年 Brot für die Welt (世界にパンを)で集めています。今年にはコロナで教会バザーがなく全収益をそこに献金出来ないのは残念です。毎年多くの方々の協力で何年間もその活動に参加できるのは嬉しいことです。

私は週一回お友達の所と一緒にお昼を作り、ご飯が出来るまで二人で賛美歌を歌い、終わりに主の祈りを祈ります。彼女はミッシェンスクールで中高と寮に入っていたので幾つかの賛美歌を良く知っています。毎回アーメンと終えると懐かしいわと言います。私も礼拝、集会とスカイプだけで誰かと一緒に賛美することはないので、とても嬉しいです。勿論私は規則通りマスクを掛け、彼女と間隔をおいて面と向かってはいけません。会堂で皆さんと一緒に賛美出来る日を待ちながらのアドベントです。

ケルンから北ドイツの小さな村へ、長女の住む農場の近くへ引越して三度目のクリスマスを迎えます。

昨年、シニアのギタークラブが毎年訪問しているという、老人ホームでのクリスマスパーティーで弾く曲の練習の為、多忙な毎日を通り越して、しかし今年は、一月以降成人学校の授業は中止され、老人ホームへは家族でさえ訪問できない状態です。

二月二四日の夜、牛小屋、鶏小屋、豚小屋の前でクリスマスソングを歌うという習慣も、今年は取り止めになったというのを聞きました。コロナ感染防止の為に、他人との接触を避けるということが重要視される中、今まで当然の事と過ごしてきた習慣が、もろく崩れてゆくことを私たちは体験しました。

しかし次女の話で、アパートに住むお年寄りの為に買い物や他の用事を引き受ける、ということがなされているようです。これまでドアの向こうに誰が住んでいるのか分らなかった都会生活に、横の繋がりができたという嬉しいニュースもありました。三月以降、「健康を与えられて」生活していることを実感しています。クリスマスに向かう日々、皆様と一緒に光に向かって歩んでいる幸いを心から感謝いたします。

ワルター・ドレーアー
闇は去りゆく。目さめて走れ、
救い秘めたる、あの馬小屋へ。
恵みの光 照り輝きて
悩み悲しみは もはやあらず。
ヨハン・クレッパが一九三七
年に書いた詩、「闇は深まり」の
テキストをもって、皆様に恵み
多いクリスマスとなることを心
からお祈りいたします。



ドレーアー一家のアドベントクラウン

ドレーアー京子



80歳のお祝い

二月初めのある夕方、仕事から戻るとアパートから、三日分の衣類を旅行鞆に詰め、液体類は省くように言われた。「ええっ、でも明日は仕事か」と言う、「明日はお休みだよ」？「朝は早いから、絶対に0時前に寝ること！」この週末は何も予定を入れないように、とは前々から言われていたが、夫が密かに音楽教室に連絡を取りレッスンをキャンセルしてくれていたことは全く知らなかった。誕生日にアパートがどこかへ連れて行ってくれるのかなと、わくわくして来た。朝四時に起こされ、10分以内に準備完了したが、アパートは寝巻のまま。しかも、お小遣いをくれるので、あれ？彼が行かないんだら、誰と行くのかな。まさか、私一人じゃないよね。五時過ぎにお迎えが到着。義理の弟の運転で妹と両親が車に。キャッツ、どこへ行くの？飛行場でも、空港のゲートで目的地が判明。コペンハーゲン行き、二三年ぶりに憧れの街へ。



藤井千恵

一九九〇年に妹と二人で車で訪ね、それ以後も妹と何度も訪れた街。ここ数年、奈々が何度も妹一家に連れて行ってもらった街。飛行場から地下鉄を乗り継いで辿り着いたのは、長年仲良くしてもらっているデンマーク人の友人宅。なんと、弟もハンブルクから車で一足先に着いていた。一軒家の地階は友人の長男一家、二階は友人夫婦が住み、三階のアパートを通常 Airbnb で貸しているが、私たちをただ泊めてくれた。金曜日から月曜日まで(帰りは日曜日の予定を、強風欠航のため一日延期)、家族五人でコペンハーゲンの名所を訪ね、名物(主に食べ物)を堪能した。

で、コペンハーゲン行きができて良かった！と本当に感謝している。

当分は旅どころではない状況が続くと思うが、人との交流が制限され、健康管理が難しい中、仕事や学校が続けられ、家族がそばにいることは幸せ。そして、礼拝がスカイプで出来ることも幸い。毎週教会に通うことは難しくても、ビデオ礼拝には参加できるので、このことは不幸中の幸いとも言える。世界中の人々にとって健康で幸せなクリスマス、そして新年となりますように♡

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、クリスマスを迎える。今年は三月以降数回の例外を除きSOSによる①礼拝、②聖書の学び会、③役員会を続けている。「野外礼拝」、ドイツの教会と合同の「通りの祭り」や恒例の「教会バザー」を中止せざるを得なかったりと、色々制約も多いが、①②については遠方に引っ越した方々や日本からの参加もある等、豊かで恵まれた教会生活が可能であったことを感謝している。

藤井隼人

個人的には、子供達からの提案で我々両親が子供時代を過ごした隠岐、米子、鳥取等を、我々が元気づけ等に、親子五人で巡る(子供達の配偶者や孫たちは留守番)という旅の構想を早くから温めてきたが、周到に計画・準備して出発を待つばかりの五月の家族一時帰国を断念し、全てキャンセルしたことは残念であった。

自粛期間中の今、Zoom等を利用した有料、無料様々な講演会に積極的に参加している。例えば、原発事故「生業訴訟」(原告団長中島孝氏)、「コロナ禍とジェンダー」(上野千鶴子氏)、「上関原発計画の撤回を求めて」、「一〇年目の福島」、「心くしま復興支援フォーラム」、「コロナ禍での民主主義(望月衣塑子氏)」、「ひとりもとり残さない社会をめざして」.....



12月1日にアドベントカレンダーと手作りのクッキーを持ってきた孫(梨花の息子)の堅造

新型コロナウイルス！

藤井弘子
ドイツの教会は二月二四日に「クリスマス礼拝ができませんように」とコロナの状況に合わせてひたすら歩んで来たように思える。私の属する地元の教会の聖歌隊も同じだ(私は九月まで欠席)。指揮者から5m以上、お互いは前後左右2m以上離れる。消毒、マスク、窓、戸の開放、一〇月には膝掛けを持参。クリスマスが祝えるように辛抱しよう、と一月はロックダウン閉鎖。二月は時間短縮の上で数人づつの時差練習。二四日イブ、聖歌隊は町内の二箇所の広場で野外礼拝、MCCAのブラスバンドは三箇所の広場で礼拝奉仕。その他、子供達は教会で二度に分れて生誕劇礼拝と、市内の各教会により一日中時間をずらして礼拝は行われる(遠くに外出しにくい方々の為の配慮)。

私はケルン・ボン教会のスカイプ礼拝によって慰められ、メリハリのあるコロナ期を過ごせているが皆さんと大声で讚美し、共に礼拝できることが大きな恵みそのものであると、コロナによって教えられた。今ドイツでも路上で越冬する人の無いよう必死で対策が練られている。どうか救い主イエスの降誕の祝日が全ての人にとって心身ともに暖かく幸せな時となりますように!!! Frohe Weihnachten!

ヘルガ・マイヤー
異例の一年を過ごしました。コロナ禍のルールやリスクによって、私たち皆の生活は一変しました。中でも、教会生活を狭める拘束は辛いです。皆で教会に集い礼拝を守ることができず、直接交流もできないことになって、お互いに力づけあうことも不可能です。待降節に入り、懐かしく思い出されるのは、楽しかったページェントの(我々おばあさんたちも羊飼いをさせてもらった!)こと。今年は無理なので、来年に期待します。

わが家族に関しては、二つの大イベントをキャンセルせざるを得ませんでした。特に残念だったのは、日本在住の息子一家が来れなくなりました。ずっと会えずにいると、段々縁が遠くなってしまうです!
更に私個人にとって負担となったのは、自転車で行道中の道端の杭に接触、転落して左の踵を骨折したことでした。手術、長期の入院(部屋での隔離も含む)の間、皆様の祈りに支えられました。そして

少しづつ回復してはいますが、元通り動けるようになるまでこれからも辛抱が必要です。
お互いに健康を保ち、近い将来再び神の言葉の下にお会いできることをお祈りします。毎日佐々木先生が送ってくださる日毎の御言葉を感謝しています。

メリークリスマス!

外間久美子

二〇年以上前の話になりますが、日本から訪ねてきた友人の置き土産の雑誌を読んで衝撃を受けました。「地球環境と健康を守るための一五の警告」という「マナメッセ」という雑誌でした。そこには原子力と人間は共存できるが、海の汚染の深刻化、細菌やウイルスが人間を襲う、こともへのタバコの害など、とても考えさせられる問題が取り上げられていました。その中に抗生物質や薬の乱用をやめない限り、人類は将来非常に困難な状況に陥るという予言めいた記事がありました。

あまりにも全ての記事が衝撃的だったので保管してあったその雑誌を探しだし再読してみました。まさにその警告通りなことが起こっていると思えました。「人間は自らもその一部であるはずの自然に押し、つねに働きかけて人間本位の秩序を押しつけてきました。すでに始まっている細菌やウイルスの逆襲というのは、人間というウイルスを排除しようとする地球の免疫反応なのかもしれません。」マナメッセ九七総集編<OP>より抜粋「地球の温暖化、台風の大型化なども人間の傲慢さからきていますし、一人一人が神様の許しと助けを乞い、己れを環境を変えていかなければと思いつながらアドベントを過ごしています。」

メリークリスマス!

吉丸おと・和慧

コロナの中でも私たちは元気で感謝です。皆様、良いクリスマスをお迎え下さい。



◆ 報告 ◆

◇九月二七日 臨時教会総会(スカイプにて)
佐々木良子牧師の任期再延長・二〇二五年三月三十一日迄決定いたしました。

◇一月四日欧州教職者研修会スペシャルZoomにて行われ佐々木良子牧師が参加しました。
◇二月一四日、外国語教会協議会クリスマス礼拝をZoomにて行われ、佐々木牧師と役員の新ユニット亜弥子姉が出席しました。

◇二月一三日・二〇日クリスマス礼拝&特別賛美礼拝をスカイプにて行いました。日本より日本基督教団小松川教会ハンドベルクワイヤーの皆さんによる演奏等、教会員によるギター演奏又、礼拝後は、御言葉の交換をして恵みの時となりました。

◆ 予告 ◆



◇二〇二一年 新年日独語礼拝(スカイプにて) 一月三日(日) 礼拝一四時 ※ドイツ語訳あり

◇一月三十一日(日) 教会定期総会(スカイプにて)

◆ 編集後記 ◆

先日用事で街まで出たついでに、ケルンドームに足を運びました。一般見学は禁止ですが、お祈りの為なら許可され入ることができました。あの大きな大聖堂の中には私を含め三人だけでした。音も光のない無の世界のようでした。ふとイエス様のご降誕もそうだったのかと。今の暗闇の中にイエス様の光が全ての人に注がれますようにお祈りいたします。 佐々木良子

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

<主日公同礼拝>
会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

<牧師> 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)
牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

<ホームページ>
http://koelnbonn.jp

<振込口座>
IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF